

産業社会と人間 課題研究発表会

総合学科ならではの授業[産業社会と人間]では、2月10日(木)、1年生では今年度はじめての課題研究発表会を開催しました。

毎日新聞(2016.2.12朝刊)等でも紹介された「久美高CMを作ろう」班は、プロの機材や手法を紹介し、完成させたCMを上映しました。



「演劇でコミュニケーション」班では、チームワークが必要で、なおかつ相手を信頼していなければ完成できない“人間椅子”を披露し、演劇『凄惨配管工の兄弟』を演じました。息づかいの聴こえる距離に約100人の観客がいる前で、思い切りのよいパワフルな演技を行いました。

「丹後地域のバリアフリー調査」班は、「京丹後市で車いすに乗って旅ができる」をテーマに、実際に車いすで丹後地方の複数の観光施設にリサーチに出向き、店内や店外、周辺で車いすが利用できるかどうかを調べました。最終的には、集めた情報を集約した地図を作成する予定です。

「丹後のPRポスターを作ろう」班は、民宿や旅館の方にインタビューを重ね、外国人観光客が京丹後市を訪れた際に役に立つお店の英語のPRポスターと指さしシートを作成しました。この経験を通じて新たに学んだ英語や、民宿や旅館の方とのコミュニケーションの取り方など、勉強になることが多く、有意義な体験になりました。



「新興梨のオリジナル加工食品を作ろう」班は、梨チップスや梨キムチなど、全部で14品目の新興梨を使ったレシピを考案しました。考案にあたっては図書館の本等も参考にしましたが、和梨のレシピは西洋梨に比べると少なく、今回考案したレシピ集は、久美浜の特産品である梨の加工に取り組む授業で、来年度以降も役立つことでしょう。



「久美浜湾の渡り鳥調査」班は、久美浜湾に訪れる渡り鳥を観察し、なぜ白鳥は久美浜湾に飛来しなくなったのかという疑問から川の水質調査を行いました。生活排水が原因で久美浜湾が汚れ、エサである水草が減ってきていることを具体的にデータで証明した、見事な研究発表でした。

「紙芝居を作ろう」班は、『猿の嫁入り』など、京丹後にまつわる昔話を題材に紙芝居を2編制作し、披露しました。地元から古くから伝わる文化や歴史を知る、よい機会となりました。

英語科レシテーション・グランプリ

1月から2月にかけて、今年度で7回目となった英語科の取組《レシテーショングランプリ》を開催しました。

レシテーションとは、詩などを原稿は一切見ずに暗唱することを意味します。全学年の生徒がそれぞれ、英語の詩やエッセイを授業中のコンテストで暗唱し、選ばれた代表者が一堂に会してグランプリを開催。とくに優れた発表を行った上位5名に表彰状が贈られました。

1年生 (コミュニケーション英語Ⅰ)



- 1位 小西 風花 (1C)
- 2位 松本 枝莉 (1C)
- 3位 坪倉 由華 (1C)
- 4位 井上 陽渚 (1A)
- 5位 吉岡 文也 (1B)
辻 颯馬 (1C)

13名が発表を行いました。はじめてのレシテーション大会で、とても緊張した様子でしたが、一人一人努力の成果を見せてくれました。5位が同点で2人入賞するなど、レベルの高い暗唱をしました。また、司会は1Cの高橋俊喜さんと口田結斗くんが務め、英語で進行しました。

2年生 (コミュニケーション英語Ⅱ)

- 1位 奥田 勝哉 (2C)
- 2位 増馬 育美 (2C)
- 3位 山下 結子 (2B)
- 4位 大谷 未夏 (2C)
岡田 涼太 (2C)

15名が発表を行い、左記の結果となりました。全体的にレベルは高く、4位は同点で2名が並びました。皆立派な発表でした。また、司会は2Cの埋金楓さんと竹中美帆さんが務め、英語で進行し、大会を盛り上げました。



3年生 (コミュニケーション英語Ⅱ・Ⅲ)



- 1位 松井 魁 (3C)
- 2位 綱 のぞみ (3A)
- 3位 古泉 伊織 (3C)
- 4位 後藤 匡 (3A)
- 5位 村野 武広 (3C)

12名が発表を行い、左記の結果となりました。練習期間が短く、十分に実力を発揮できない生徒もいましたが、よくがんばりました。また、司会は3Cの堀董さんと栗山桃子さんが務め、英語で進行し、大会を盛り上げました。

福祉系列の取組

京丹後市聴覚言語障害者地域活動支援センター訪問



1月21日(木)、福祉系列の3年生が峰山町荒山の京丹後市聴覚言語障害者地域活動支援センター「てとて」を訪問し、ご利用者の皆さんと交流をさせていただきました。

手話学習をしている生徒も初めての生徒も、ジェスチャーや筆談・表情などあらゆる手段を使って「会話」に挑戦しました。手話が出来なくても聞こえない人とコミュニケーションが可能なこと、手話でより豊かな会話が可能で、そして自分から勇気を出して関わるのが大切だと学びました。

文科系クラブ・授業・委員会の活動報告

2月は「文化に親しむ月間」取組中

日々の学習活動、クラブで取り組んでいる成果を発表し、発展を図るべく、生徒指導部主催のもと「文化に親しむ月間」が開催されています。華道部、美術部など文科系クラブや、芸術科授業で制作した作品展示のほか、茶道部や軽音楽部などが発表会を行いました。



手作り疑似チョコと バレンタインにおすすめの本 召し上がれ♡

—図書放送委員会—

図書放送委員会では、今年度最後の展示企画として、バレンタイン・デーをイメージした書物を紹介するプチ・コーナーを作り、「文化に親しむ月間」に彩りをプラスしました。

書物の保護のため、学校図書館に本物のチョコレートを置くことはできないので、軽量粘土に色をつけて、本物そっくりの疑似チョコレート菓子を作り、制作した9名の生徒それぞれが、バレンタイン・デーをイメージして選んだおすすめの本とセットで展示しました。

思わず手が出る疑似チョコレートに惹かたてられ、ふだんは目立たない本棚の1冊を手にとってもらえる機会となりました。



生産科学系列の取組

2年生[食品製造]講座 一発酵食品に挑む一



1月後半から、[食品製造]の講座では、発酵食品の単元に入りました。発酵食品とは、「農畜水産物を微生物の働きを利用して原料の姿とは異なった特色ある食品(栄養価・風味・食味など)につくりかえたもの」です。

第1回目はヨーグルトと甘酒の製造を行い、第2回目は納豆の製造を行いました。納豆は、よく水洗いした大豆を一晩水に浸け、鍋でゆっくりとゆいていねいに炊きあげました。その後、ざるにあげ、中に市販の納豆1パックを入れてよく混和したのちパックに小分けし、恒温器に入れました。また、昔ながらのワラを使用した製造方法も実施し、先人の知恵に学びました。

2年生[環境科学]講座 一廃油リサイクル一



[環境科学]講座では、天ぷら使用後の廃油を使用した、固形石けんづくりに挑みました。牛乳パック内に入れた水酸化ナトリウムを水でよく溶かした中に、天ぷらなどに使用した後の廃油を静かに注ぎ、しぶきやはねを上げないように気をつけながら約30分間、割り箸で攪拌しました。そのままの状態ですべて置いておくと約3週間で固形石けんになります。今回は、消費期限切れのキャノーラ油やオリーブオイル、米油も使用しました。廃油のほか、牛乳パック、ペットボトル、割り箸など使用器具や材料も全てリユース(再使用)・リサイクル(再生利用)を心がけました。この学習の成果を生かして、小学生高学年向けの出前授業を予定しています。

この学習の成果を生かして、小学生高学年向けの出前授業を予定しています。

環境講演会「水俣公害の歴史について」

—京都精華大学 出前授業—

2月9日(火)[環境科学]講座では、京都精華大学人文学部総合人文学科(社会専攻)教授 板倉 豊 先生から「水俣公害の歴史について」のテーマで講演を受けました。

生徒達は、「水俣病」が熊本県水俣湾周辺で発生した水質汚濁(水銀)による四大公害病の一つであることなど、公害のあらましは社会の授業などで知っていましたが、患者の発生から原因の特定に至るまでの長い経緯や患者認定についてや、有機水銀(メチル水銀)の恐ろしさや食物連鎖による生物濃縮などの詳細についても、より深く知る機会となりました。

板倉先生にDVDとパワーポイントを元に丁寧かつわかりやすく解説していただき、理解を深めることができました。



今号の「久美高だより」は、久美浜高校同窓会の援助により発行しました。